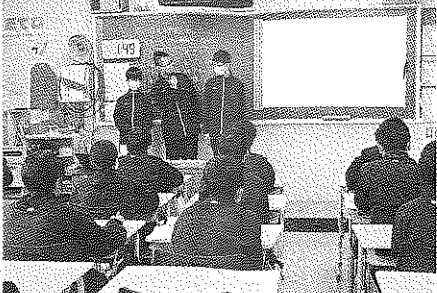


道教大附属函館中とせしたな大成中

# 地域の“宝”は何かな

## 総合探究の学習成果を発表

【函館発】道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）とせしたな町立大成中学校（赤井優子校長）は16日、リモート交流授業を行った。両校の1年生が総合的



な学習の時間に取り組んだ地域学習について発表。互いに発表内容の疑問点を尋ねることで、今後の改善に役立てた。

大成中は小規模校のため、意見交換の機会が限られてしまう傾向にあることや、両校の1年生が総合的な学習の時間に地域に関する学習を進めていることを踏まえ、中規模校の附属街の宝について発表する附属函館中の生徒

函館中と互いの実践を交流し合う場を設けた。

附属函館中の1年生101人は「函館で街の宝になるもの」をテーマに探究学習に取り組んできた。今回、年間計画の中間報告として各クラスから5グループが発表した。

うち1年C組のあるグループは、イカが函館の特産品である理由について学習で得た知識を披露。対馬海流に面している地域特性から秋に発生したイカが泳いでくることを説明したほか、水槽で生きたままのイカを運ぶ運送設備の良さが、国内多方面の流通に適していることなどを発表した。

暖化等の影響によって近年イカよりブリの漁獲量が増加していることを指摘。街

頭アンケート調査やブリに関するレシピなどを調べ学習し、新たな特産品としてブリの知名度をアピールする必要性を強調した。

大成中は学習成果の最終発表として同校が位置する

大成地区の特色を発表。地域の伝統的な祭りとして学

校祭で演舞する「久遠神楽」や新鮮な魚介類を漁獲できる環境を紹介した。特産品であるウニについて「町では、身入りの悪いウニは捨てたり放棄したりせず、陸や海岸で身が詰まるまで養殖している」などと

別のグループは「新しい函館の宝」と題し、地球温

発表し、町とSDGsの結び付きを考察。関尚士さんは「こうした工夫性のある取組はSDGsで掲げている17の目標のうち、12番の『つくる責任つかう責任』につながっていると思う」と述べた。

それぞれを発表後、質疑応答を行った。両校の生徒

全国的に、過労死等

は発表で得た疑問点を積極的に質問して学習内容に理解を深めた。

附属函館中の三塚ひとみさんは「鋭い質問や意見で改善点を見いだすことができた。大成中生も同様に思ってもらえればうれし

また、10〜20代における

### 函工高定時制 厚労省啓発授業

## 何かあれば周囲に相談

### 労基法関係のルール学習

【函館発】函館工業高校（伊藤良平校長）定時制課程の3・4年生11人は14日、厚生労働省の労働問題・労働条件に関する啓発授業を受講した。雇用主と労働者の関係性など、労働

基準法に関わる基本的なルールを学習。生徒は職場で直面しかねない身近な事例について熱心に耳を傾けた。

全国の中高校生や専修学校・大学生等に、過労死等

の労働問題や労働条件の改善について理解を深めてもらおうと、厚労省が平成28年度から実施している啓発事業。

同校では、働きながら学ぶ生徒が多い定時制課程の3・4年生を対象に行い、きたあかり法律事務所の皆様による講義をオンラインで受講した。写真。

また、10〜20代における

近年、労働紛争が増している傾向を指摘し、基本的なワークルールを学ぶ必要性について言及。実際に相談依頼のあった具体的事例として「ハローワークの求人票と勤務実態が異なる」「残業代が支払われない」などは労働基準法に違反していることを解説した。

また、10〜20代における

また、10〜20代における